

施設栽培におけるヒュウガナツ‘宿毛小夏’および ‘西内小夏’の品種特性

谷岡英明・田中満稔・青木俊和・五百蔵茂

The Characteristics of Hyuganatsu (*C. tamurana Hort. ex Tanaka*) Cultivars
‘Sukumokonatsu’ and ‘Nishiuchikonatsu’ in Protected Cultivation

Hideaki TANIOKA, Mitsutoshi TANAKA, Toshikazu AOKI and Shigeru IOROI

要 約

高知県内で発見されたヒュウガナツ‘宿毛小夏’と‘西内小夏’の施設栽培での品質および特性について検討した。

1. ‘宿毛小夏’は、減酸が早く、現行の施設で栽培されている普通日向夏より約1ヵ月早く収穫できる。糖度は、‘西内小夏’や普通日向夏より高い。また、 m^3 当たり収量は低いが、隔年結果が少なく、生産量が安定している。
2. ‘西内小夏’は、普通日向夏に比較し糖度が低く、食味がやや淡泊になるが、自家結実し、豊産性で、果実のバラツキが少なく、秀品率が高い。
3. ‘西内小夏’の花粉を‘宿毛小夏’、普通日向夏に受粉すると、着果率は低いが、少核果となる。

キーワード：ヒュウガナツ，施設栽培，宿毛小夏，西内小夏，早生種，自家和合性